

ごみの山から見えてくる地球の未来

所属	静岡県浜松市立双葉小学校	実践者	櫻井 利幸 (L)
対象	小学4年生	時間数	8時間
場所	清掃工場・双葉小学校	実践教科	社会・総合
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃工場の見学を通して、廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわりについて知る。 ・ラオスを知って身近に感じ、ラオスの課題について考える。 ・参加型学習を通して、自分たちができることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～4 (4時間)	【日本の廃棄物処理を知る】 ・清掃工場の見学 ・ゴミの分別収集などの習慣 ◇日本のゴミ処理技術やゴミ収集のシステムを知る。	浜松市西部清掃工場 (校外学習)
	5	【わたしの夢・あなたの夢】 ・浜松ってどんなところ ・ぼく、わたしの夢 ◇日本・浜松の良さや自分の夢、今夢中になっていることを絵で表現して、ラオスの子どもたちに紹介する作品を作る。	紹介する絵 
	6	【行ってみたらこんなところ】 ・ラオスクイズ ・どうしようゴミの山 ・働く子どもたち ◇ラオスで見てきた実情をクイズ形式で紹介する。ゴミ問題が大きな社会問題になっていることを写真を見て考える。たくさん子どもたちが家族のために働いている現状を知る。また、ラオスの子どもたちが描いたラオスの良さを紹介する。	パワーポイント資料 
	7	【貿易ゲーム】 ・貿易ってどういうこと ・先進国と途上国 ◇「貿易」を中心に、世界経済の動きを疑似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考える。先進国と途上国の格差を知り、途上国の人たちの思いを考える。	新・貿易ゲーム 
8	【わたしたちの未来】 ・青年海外協力隊の人の話 ・自分たちにできること ◇協力隊の人の話を聞き、自分たちにできることを考える。	フォトランゲージ 	
成果	子どもたちはラオスの様子を写したスライドや現地で手に入れた実物を見せることで興味をもって活動した。同じ年代の子どもたちのくらしや夢を共有することでラオスを身近に感じていた。		
課題	日本とラオスの経済格差を貿易ゲームを通して体感できたが、資源や技術など詳しく説明しないと理解が難しい場面も見られた。発達段階に応じたゲームに変えていく必要があると感じた。		
備考	資料：開発教育協会・神奈川県国際交流協会「新・貿易ゲーム」		

[授業実践の詳細]

1-4 時限目 「日本の廃棄物処理を知る」

1 子どもの活動の流れ

- ① 浜松市西部清掃工場を見学する…清掃工場では、どのようにゴミを処理しているのか学ぶ。ゴミを処理する以外にも様々なエコスポットがあることを知る。「隣にあるゴミを燃やして出る熱を利用した温水プール」「壊れた家具やおもちゃを直す「リユース工房」
- ② ゴミ収集車のゴミ回収の様子と収集システムのVTRを見る…「ゴミを燃やした熱による発電」、「浜松市の分別収集のルール」
- ③ 3R（スリーアール）を実践しよう…Reduce（リデュース）ゴミの量を減らす。包み紙などの容器包装はできるだけ少なくなる ように済ませる。普段から、マイバックやマイ箸などを持ち歩くことを心がける。Reuse（リユース）繰り返し使う。家庭用品が壊れたら修理して大切に使う。いらなくなった物は人に譲ったり、バザーに出したりする。Recycle（リサイクル）再生資源に戻す。ゴミを分別し、リサイクルしやすいようにする。新しいものが必要になったら、リサイクル商品を使うようにする。自分の家の1週間のゴミ調べをして、どんなものがゴミとして出ているか検証する。

この時限のねらい

- 見学を通して廃棄物処理に興味をもつ。
- 日本の廃棄物処理の技術とシステムを知る。



<浜松市西部清掃工場の様子>



<地域のゴミの分別収集>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分の家の1週間のゴミ調べを通して、自分たちがどれだけたくさんのゴミを出しているのかを意識させることができた。清掃工場の見学から廃棄物処理の技術とシステムを学ぶことができた。

3 使用した教材

- <教材1> 施設見学ガイド(浜松市西部清掃工場発行)

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング…「4つの私、1つはウソ」
- ② 教師が海外研修でラオスに行くことを知る… ラオスの場所、どんな国なのかを地球儀や地図を使って学ぶ。ラオスに住む子どもたちの写真を見て、ラオスという国をイメージする。ラオスの少女(プーさん)の1日と自分の1日を比べる。ラオスクイズ(大切にしていること・守りたいもの)
- ③ ラオスで見てきて欲しいことを考え、発表する。
・流行っている遊び ・行きたい外国 ・今欲しいのものは何か ・食べ物
- ④ ラオスの子どもたちに、自分の夢や日本の生活の様子を伝えるための絵を描く(ラオスで子どもたちに同じように絵を描いてもらうことを伝える)。

この時限のねらい

- ラオスがどんな国なのかを知り、ラオスという国に興味をもつ。
- 自分たちの住んでいる浜松の紹介や自分の夢の絵を描くことで自分自身の生活や夢を振り返る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ラオスという名前を知っている子が 32 名中1名。全ての子どもたちがラオスという国がどこにありどんな国なのか知らなかった。そこで地球儀や世界地図、写真を使って調べさせた。地図を見て、子どもたちは、東南アジアで日本の南に位置する国であること気づいた。ラオスの子どもたちが写っている写真を見た子どもたちは、現地の子供たちがどんな生活をしているのか気になった様子。ラオスで見てきて欲しいことを発表する場面では、現地で流行っている遊びや食べ物など生活に関するものが多かった。
- ◇ ラオスの少女(プーさん)のある1日と自分の1日を比べる学習では、朝、5時に起きて朝ごはんの支度をすることや托鉢に行くこと、給食は無く家に帰って昼食を摂ること、家族のために働く時間が多いことなど、生活に大きな違いがあることに気づくことができた。また、自分の1日を書き出すことによって、自分自身の生活についても振り返るきっかけとなった。
- ◇ ラオスクイズでは、ラオスの人々が大切にしていることや守りたいものなどの生活習慣についてウソ・ホントのクイズ形式で紹介した。挨拶の仕方や初対面の人との接し方など楽しみながら学んでいた。子どもたちは予想外の解答に「へー、そーなんだ。」と興味をもった様子だった。
- ◇ 言葉は通じなくても絵なら伝えることができるという理由から、ラオスの子どもたちに自分の夢や日本の生活の様子を紹介する絵を描く活動を行った。子どもたちは将来なりたい職業や習っているダンスの紹介、富士山や天竜川などの自然、飲み水(浄水場の見学をした後だった)など身近な場面の紹介を絵で表現した。ラオスの子どもたちに見てもらえるとあって自分の思いが正確に伝わるよう一生懸命描いていた。



<クイズに取り組む児童>



<児童が描いた私の紹介>

3 使用した教材

<教材2> 地球儀、世界地図

<教材3> わたしたちの地球と未来 (愛知県国際協会発行)

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「積み上げ自己紹介」
- ② ラオスクイズ…ラオスの実情がわかるクイズに挑戦する。
- ③ どうしようゴミの山…ゴミが山になっている写真、JICA がプレゼントしたエコバックをもっている嬉しそうに持っている現地の女性の写真を使って、フォトランゲージを行う。ゴミ問題が大きな社会問題となっていることについて写真を見て考える。
- ④ 働く子どもたち…現地で撮ってきた写真から、たくさん子どもたちが家族のために働いている現状を知る。
- ⑤ ラオスの子どもたちの絵の紹介…ラオスの子どもたちが描いたラオスの良さを紹介する。

この時限のねらい

- クイズに挑戦することでラオスの文化に触れ、他国の文化を尊重する気持ちを養う。
- フォトランゲージを通して、どうしたらゴミ問題を解決できるか自分の考えをもつ。



＜ラオスで見たゴミの山＞



＜フォトランゲージの様子＞



＜ラオスで働く子どもたち＞



＜ラオスの子どもたちが描いた絵＞

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ フォトランゲージを通して、ゴミ問題がラオスの大きな社会問題となっていることに気づくことができた。清掃工場への校外学習を思い出し、清掃工場を作れば良いという考えや自分たちが実践してきた3Rを行えば良いという考えも出た。考えが出尽くしたところで JICA の取り組みについて写真を見せて紹介した。自分たちができることは、何かとの問いに「今できる目の前の環境を改善していくこと」「良い方法を伝えていくこと」という発言がでた。
- ◇ ラオスの子どもたちが書いた絵から、ラオスの美しい自然や日本の子どもたちと仲良くなりたい気持ちが伝わってきた。自分たちと同じ年代の子どもたちの素朴な気持ちに共感していた。

3 使用した教材

<教材 4> ラオスの廃棄物問題がわかる写真

<教材 5> ラオスの子どもたちが描いたラオスの紹介の絵

7 時限目「貿易ゲーム」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「貿易ゲーム」の方法とねらいを紹介する。
意味するもの ・紙…資源 ・クリップ(キャンディー)…お金
・ハサミ、コンパス、分度器…技術
- ② ルール説明の後、「貿易ゲーム」を行う。
- ③ 「貿易ゲーム」を振り返り、貿易の問題点を考える。
・先進国にお金が集まる。・上手に交渉していくことが大切。
・資源がなく、技術もない途上国は何をしたらいいか分からない。

この時限のねらい

- 貿易ゲームを通して「貿易」を中心とした世界経済の基本的な仕組みを知る。
- 「貿易」によって起きる様々な問題に気づく。



<貿易ゲームの様子>

A	B	C	D
先進国	新興国	途上国	途上国
鉛筆 3本 ハサミ 2つ 定規 2つ 分度器 1つ コンパス 1つ 紙(A4) 1枚 お金20CAN	鉛筆 1本 ハサミ 1つ 定規 1つ 紙(A4) 1枚 お金 5CAN	鉛筆 1本 紙(A4) 20枚 お金 2CAN	鉛筆 1本 紙(A4) 1枚 お金 1CAN

<貿易ゲームのルール>

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 貿易ゲームを行う前に、貿易とは、どんなことが説明した。子どもたちは世界の国の中には、お金と技術がある先進国、技術を付けてきた新興国、資源が豊富な途上国、技術も資源もない途上国があることを知った。実際にゲームを進めていくと順調にお金を増やしていく先進国に対し、何もできない途上国が存在することに子どもたち自身が気づいていった。振り返りの中で、途上国の班が感想を発表した。「お金もない、技術もない中で何をしたらいいか分からない。」これらの班には、途中で JICA からの支援としてハサミや分度器といった技術を送ったが、もどかしい気持ちを経験していた。「それが、今の途上国の人の気持ちだよ」と話すと、この体験を基に納得していた。

3 使用した教材

<教材 6> 神奈川県国際交流協会『新貿易ゲーム』

<教材 7> 開発教育推進セミナー『新しい開発教育のすすめ方—地球市民を育てる現場から』

1 子どもの活動の流れ

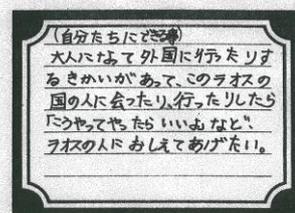
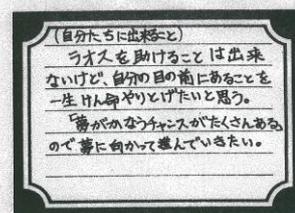
- ① アイスブレイキング「バースデーライン」
- ② 青年海外協力隊の人の話を聞く…ラオスで活躍している協力隊の生の声を聞く。お金やものはないけれども幸せに暮らしている人々の生き方に共感する。
- ③ 未来に向かって自分ができることを考える…協力隊の人の話を聞いた感想を紹介し合う。自分に何ができるのか考える。

この時限のねらい

- それぞれの国には、課題もあるけれどもその国ならではの良さがあることを知る。
- 未来に向かって自分ができることを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ アイスブレイキング(バースデーライン)では、無言で誕生日の早い順に並ぶことで、言葉を使わないコミュニケーションを体感できた。
- ◇ 青年海外協力隊の人たちの話の概要:ラオスの子どもたちが日本と比べれば貧しいけれども、自分たちの夢に向かって一生懸命生きていること。ラオスの人々が幸せになるために自分たちは働いていること。日本は豊かな国で外国に来て、その豊かさに気付いたこと。若い君たちにはチャンスが溢れ、自分の夢を成し遂げるためには、今自分が取り組んでいることに真剣に向き合うこと。現地で活躍している彼らの生の声を聞いて、子どもたちは、自分の夢を実現させるために、目標をもつことの大切さを再認識していた。



<児童の感想(できること)>

3 使用した教材 <教材8> 青年海外協力隊へのインタビュー動画

■ 全体を通して

ラオスでの教師海外研修で私自身が感じたことは、アジアでも最貧国と言われるラオスの人々が皆笑顔でより良い社会を作っていこうと努力していて、物の豊かさや心の豊かさは比例しないということだった。現地で出会った子どもたちの多くは家族のために働いていた。核家族化が進み、自分のことだけを考える人が増えている日本人にとってラオスの人々から学ぶべき点も多いと感じた。また、ラオスで働く青年海外協力隊が現地の人の中に溶け込み、共に課題と向き合い、解決方法を考えている活動の様子を見た。彼らは決して自分たちの考え方を押し付けるのではなく、現地の人々の生活習慣や考え方を理解した上でより良い方法を提案していた。人類共通の課題を知り、人々と共に課題を解決しながら、より良い未来を築く力を育てる国際理解教育を彼らは実践しているのである。

学校教育に携わる我々教員は、自分自身を振り返り、他者を理解し、多様性を理解した上で対立を解決していけるような人間を育てていかなければならない。そのために国際理解教育の研修を更に深め、推進していきたいと考えている。



<協力隊の話聞く児童>